

**新国立競技場 設計概要（案）**  
**（基本設計時からの主な変更点等）**

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

平成27年（2015年）7月

# 新国立競技場 設計概要（案）（基本設計時からの主な変更点等）

## 目 次

1. コンセプト	1	4. 設計図（案）	
2. 基本設計時からの主な変更点		（1）施設概要・配置図	16
（1）避難計画	3	（2）観客席数	17
（2）ユニバーサルデザインの深化	4	（3）各階平面図	
（3）ランドスケープ計画・緑化計画	6	・地下2階平面図	18
（4）開閉式遮音装置	7	・地下1階平面図	19
（5）大型映像装置	8	・1階平面図	20
（6）工期・価格・環境を踏まえた設計の見直し	9	・2階平面図	21
（7）その他	10	・3階平面図	22
3. 段階的整備について	11	・4階平面図	23
		・5階平面図	24
		・6階平面図	25
		・立面図（1）	26
		・立面図（2）	27
		・断面図	28
		5. 完成予想図（案）	29

以下の資料において、大会名及び組織名は、下記の通り記載している。

- ・『ラグビーワールドカップ2019』 : ラグビーワールドカップ
- ・『ラグビーワールドカップ2019組織委員会』 : ラグビーワールドカップ組織委員会
- ・『2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会』 : オリンピック・パラリンピック大会
- ・『東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会』 : オリンピック・パラリンピック組織委員会

# 1. コンセプト

## 1. 設計の基本方針

新国立競技場は、日本で開催される2019年のラグビーワールドカップ及び2020年のオリンピック・パラリンピック大会の主会場となることが決定している。大会後も、大規模なスポーツイベントや多種多様な文化イベントに活用される。

新国立競技場基本構想国際デザイン競技（以下「国際デザイン競技」という）に先立ち、新国立競技場のあるべき姿が国立競技場将来構想有識者会議において議論され、下記に示す「新競技場に求められる要件」としてまとめられた要件を設計の基本方針とした。

### ①大規模な国際競技大会の開催が実現できるスタジアム

- ・国家プロジェクトとして、世界に誇れ、世界が憧れる次世代型スタジアムを目指す。
- ・アスリートやアーティストのベストパフォーマンスを引き出す高性能なスタジアムを目指す。

### ②観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム

- ・世界水準のホスピタリティ機能を備えたスタジアムを目指す。
- ・開閉式の屋根や、ラグビー、サッカー及び陸上いずれの競技の開催においても、競技者と観客に一体感が生まれる観覧席を備えた、快適で臨場感あふれるスタジアムを目指す。

### ③年間を通してにぎわいのあるスタジアム

- ・コンサート等の文化的利用を楽しめる工夫が施され、特に音響に配慮された多機能型スタジアムを目指す。
- ・各種大会や文化利活用がない時でも気軽に楽しめる商業・文化等の機能を備えたスタジアムを目指す。

### ④人と環境にやさしいスタジアム

- ・最先端の環境技術を備え、緑あふれる周辺環境と調和するスタジアムを目指す。
- ・震災等の災害発生時にも安全で、避難・救援等に貢献できるスタジアムを目指す。
- ・スタジアム内外及び周辺駅からのバリアフリーに配慮されたスタジアムを目指す。

## 2. 実施設計段階における検討

新国立競技場の実施設計については、平成26年5月に国立競技場将来構想有識者会議で了承された基本設計に基づき、実施設計を進めてきた。

実施設計を進めていく中で、

- ①各大会組織委員会やスポーツ、文化関係の利用者などからのヒアリングによる設計内容の深化
- ②自治体など建築関係行政機関との協議による設計の見直し
- ③バリューエンジニアリングによる設計の見直し
- ④ラグビーワールドカップ及びオリンピック・パラリンピック大会に確実に間に合わせるための設計見直し（今後詳細設計予定）

などにより、主に「2. 基本設計時からの主な変更点」で示す項目について、基本設計内容から一部見直しを図っている。

つまり、平成26年5月に公表した基本設計と、今回示している主な変更点を併せたものが最終的な設計概要となる。

また、2019年のラグビーワールドカップ及び2020年のオリンピック・パラリンピック大会に確実に間に合わせるため、各々の段階での必要な整備を確実に行うこととし、段階的な整備を行うこととしている。

このため、ラグビーワールドカップ及びオリンピック・パラリンピック大会に向けた整備、レガシー時の活用に向けた整備が終わった段階で最終的に建物が完成することとなる。



南西側からの鳥瞰図

※現時点（2015.07）における予想図。



東側 絵画館前からの外観パース

※現時点（2015.07）における予想図。

# 1. コンセプト

(参考)

- 1) 実施設計  
実際の工事ができるために必要な契約図面をつくる設計。
- 2) バリューエンジニアリング【Value Engineering】  
設計案の再検討、工法の見直しなどによって、構造物の品質を変えずにコストダウンを図る、またはコストを上げずに品質を向上させる手法。

## 3. スタジアムの特徴

### 先端技術を駆使した芝育成補助システム

フィールド面では天然芝育成のため、南側の固定屋根部分を透明材にする。さらに日射量や、通風を補うため、グローイングライト（芝促成用照明）、大型送風機の使用に加え、段階的整備により、ピッチ内部には土壤空気交換システムや地中温度制御システムも設置し、天然芝育成に適した環境を整える。

### 臨場感を高める簡易着脱式可動席

フィールドと観客との距離を近づけることのできる可動席を採用し、イベント時の臨場感を高める。フットボールモードで8万席の観客席を確保する。

### 観客の快適性を高めるスタンド空調

夏期における熱中症対策として観客席エリアを対象として居住域空調設備を設置（3層目スタンドは換気設備を設置）するとともに、使用時間帯等にも配慮し運営上の工夫を行う。（オリンピック・パラリンピック大会時の対応については、別途検討）  
水の気化熱（自然エネルギー）を積極的に利用した、間接気化冷却空調機を採用する。

### 世界水準のホスピタリティ施設

VIP席、プレミアム席、観戦ボックスおよびそれに付随するラウンジ・レストラン等の充実した、世界レベルのホスピタリティ施設を設ける。

### レガシー時の施設利用率を高める開閉式遮音装置

レガシー時の施設の利用率を上げるために、段階的整備により開閉式遮音装置を設置する。開閉式遮音装置を閉じることで、周辺への伝搬音を軽減する。

### 商業文化施設

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館、地域住民も利用可能なトレーニングセンターを併設。スポーツ文化の普及に寄与する。  
コンベンション事業やツーリズム事業等、多様な事業展開により、イベントを開催していない時の施設の有効利用を図る。

### 安全性の高い免震構造スタジアム

免震構造を採用することで、安全・安心な大規模空間を実現する。

### 環境配慮

高効率機器の導入や自然換気利用、地中熱利用、雨水利用等の環境対策を行う。

### ユニバーサルデザイン

規模や観客層の異なる様々なイベントや大会に対応するため、席数を可変できる車いす席（146～406席）を設置するとともに、高齢者や外国人等にも配慮したユニバーサルデザインを導入する。



南側からの内観パース（陸上）

※現時点（2015.07）における予想図。



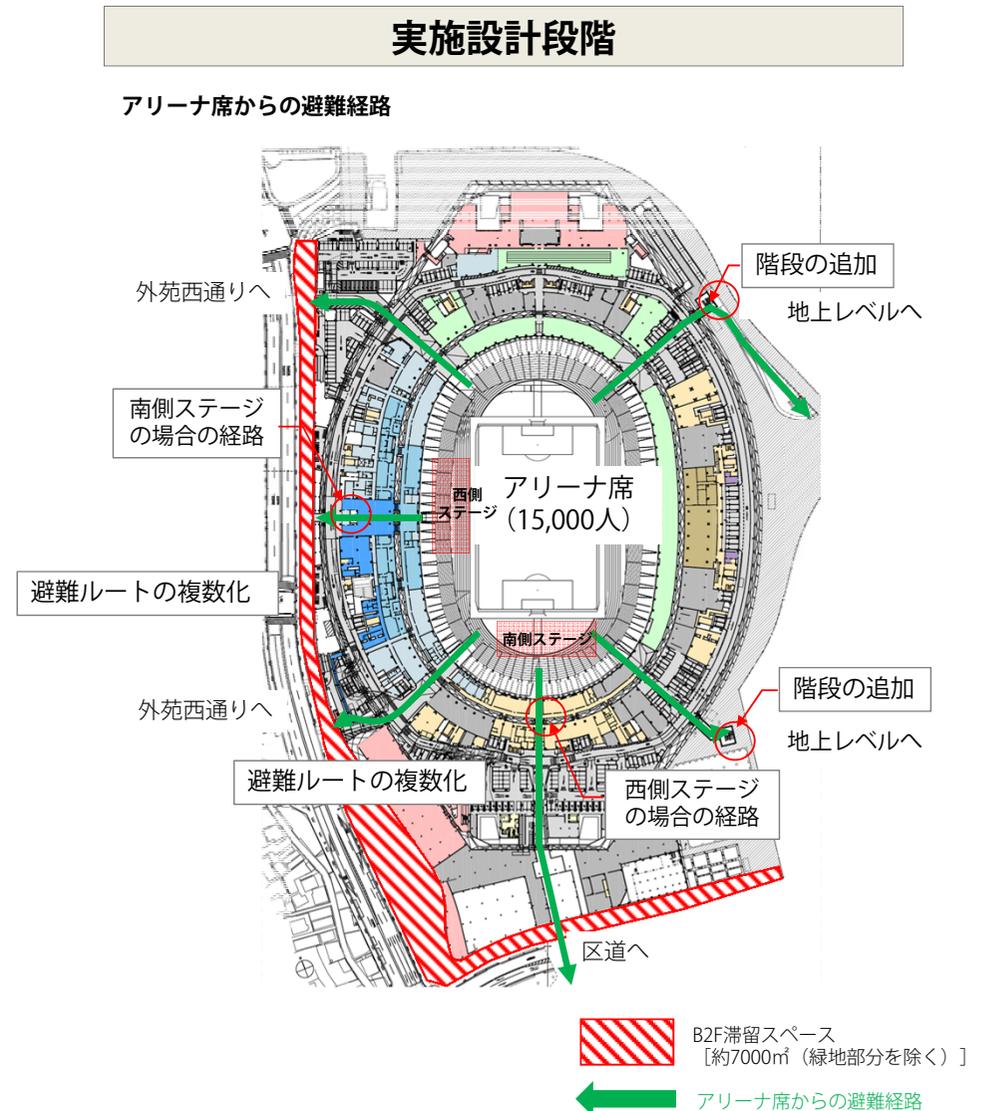
南西側からの内観パース（サッカー）

※現時点（2015.07）における予想図。

## 2. 基本設計時からの主な変更点 (1) 避難計画

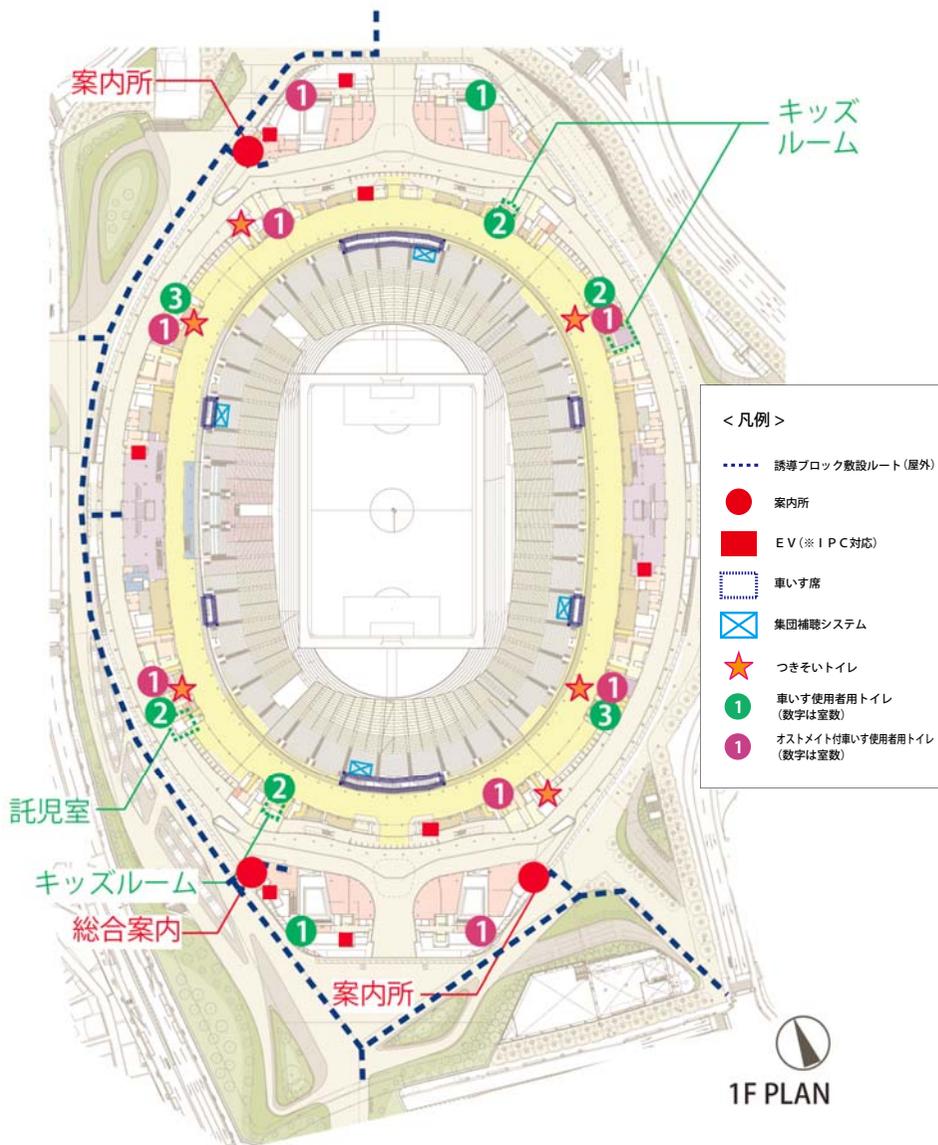
評定機関（避難安全検証部会）からの指導により、避難経路を増やすなど、アリーナ席からの避難計画の改善を行った。

※コンサート等文化イベント時



## 2. 基本設計時からの主な変更点 (2) ユニバーサルデザインの深化

実施設計において、障がい者関連団体及び障がい者スポーツ団体等にヒアリングを実施し、新国立競技場のユニバーサルデザインを深化させた。



- 1、2層目のメイン・バック・サイドスタンド、3層目サイドスタンドに車いす席を設置。(次頁参照)
- 車いす席を146～406席まで可変できるフレキシブルな計画(基本設計では120～400席) ※同伴席付き車いす席あり。※オリンピック・パラリンピック大会等、必要時にさらに増設可能。
- 敷地への入口(東京体育館連絡デッキ・国立競技場駅側入口・絵画館側入口・神宮第二球場側入口)から各案内所への主要な移動経路は可能な限り段差のない動線を計画。
- 上記の主要な入口から案内所までのルートには誘導ブロック等の視覚障がい者用ルートを設置。
- 車いす使用者用トイレ、オストメイト対応トイレを設置する。また、異性の付き添い(異性同伴)が可能なよう「つきそいトイレ」を設置する。
- トイレにはベビーチェア・ベビーシートを設置したブースを設けるとともに、授乳室を各層スタンドに配置。
- 聴覚障がい者が一人でとり残される可能性の高いトイレ等には、フラッシュランプを設置する。
- 聴覚障がい者及び高齢者の観戦を想定し、場内放送の補聴支援を目的とした集団補聴設備対応席を設置。
- 視覚障がい者の円滑な誘導を目的として、音声誘導装置や点字サインを、主要な出入口やトイレに設置。
- 観客が主として使用するエレベーターは、IPC基準に適合した仕様とする。(国際パラリンピック委員会(IPC)ガイドラインに従い、車いす使用者の利用を想定した一般的なエレベーターより広いエレベーター。かごの寸法2,100mm以上×奥行き1,500mm以上、エレベータードアの有効幅950mm以上等)
- 1階に託児室及びキッズルームを設置予定。

## 2. 基本設計時からの主な変更点 (2) ユニバーサルデザインの深化

### 車いす席の計画

